

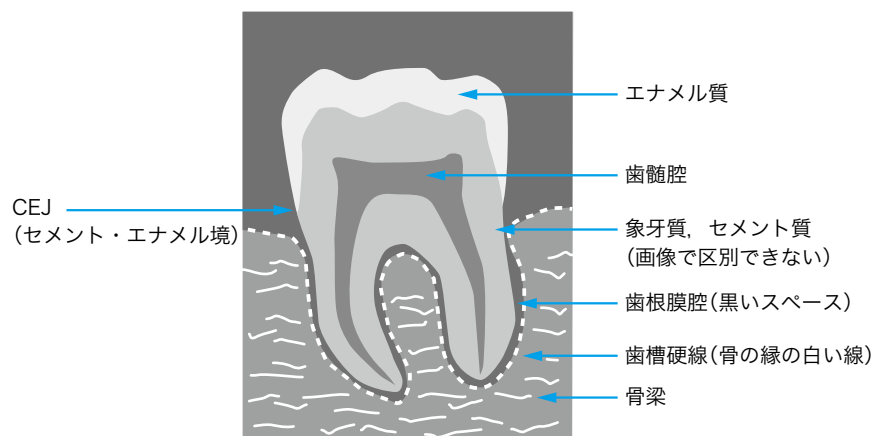
エックス線画像の診断は、歯科衛生士の業務ではない。しかしエックス線撮影の準備や診療の補助を行ううえで、正常像は最低限知っておく必要がある。

9・1

口内法エックス線撮影の正常像

口内法撮影では、おもに二等分法と平行法が用いられる(▶5章参照)。この2種類の撮影法では複数歯根や歯槽骨の見え方がわずかに異なるが、ここでは二等分法で撮影された画像で解説をする。

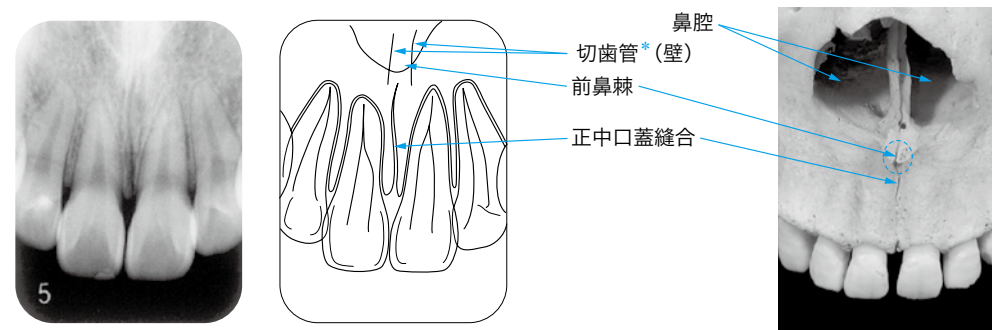
歯および歯周組織



■ 図 9-1 歯および歯周組織 ■

- エナメル質** ——— 90%が無機質で歯冠表面を覆っている。エックス線不透過性が最も高く、均一な白い画像
- 象牙質・セメント質** — 象牙質は75%が無機質で、骨と同程度の均一なエックス線不透過像になる。セメント質はエックス線の吸収率が象牙質と似ていて、非常に薄いので、画像上で鑑別するのは困難である。
- 歯髄** ——— 歯冠中央から歯根尖にかけてみられ、象牙質に比べると明らかにエックス線透過性が高い。歯髄の状態は歯の状態をよく表す。
- 歯根膜腔** ——— 歯根膜腔は歯と周囲歯槽骨の間にある歯根膜線維が存在するスペース(0.2~0.3 mm 程度)。歯根膜腔の拡大は歯の異常を表す。
- 歯槽硬線** ——— 歯槽骨の歯槽高の部分が白く描出されているところ。歯の状況や撮影方法により明瞭に描出されないこともある。
- 歯槽骨の骨梁** ——— 骨梁は海綿骨の実質的な骨の組織であり、エックス線不透過像としてみられる。一般的に上顎では比較的細かい顆粒状の不透過像、下顎では上顎よりやや骨梁に厚みがあり、やや粗な顆粒状、または、水平状に配列した不透過像としてみられる。

上顎前歯部



■ 図 9-2 上顎前歯部 ■

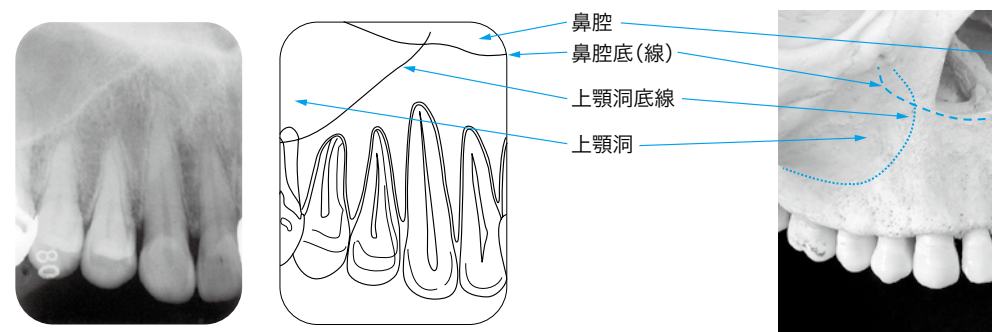
ちょっと詳しく

*切歯管ってどこ?



<上顎骨咬合面観>

上顎犬歯・小白歯部



※撮影方向からは上顎洞と鼻腔が前後的に重なるため、つながっているように見える。

■ 図 9-3 上顎犬歯・小白歯部 ■

